

【2015年度RFLJプロジェクト未来 助成研究者の横顔 1 青木正博先生】

今年度は20名の研究者が助成対象者として採択されました。

そこで今回助成される研究者及び研究の概要についてご紹介致します。

今後Ⅰ分野（基礎・臨床研究関連）、Ⅱ分野（患者・家族ケアに関する研究）の研究を交互に掲載いたします。

（基本的に週2回、年末・年始除く）

なお、ご覧いただく皆様へ解り易く説明していただくため、研究者には事前に以下の質問をしました。

1. 研究者になろうとしたきっかけ
2. 助成研究の内容紹介（素人にも解るようにお願い致します）
3. 2の将来に繋がる結果予想
4. 全国のRFLJ関係者に一言

第1弾はⅠ分野から助成採択された方をご紹介致します。

- ◆研究者 愛知県がんセンター 研究所分子病態学部の青木正博先生
- ◆研究テーマ「がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基礎構築」
- ◆助成金額：200万円

先生のがんに関わったきっかけや征圧に向けた目標が伝わってくる文章です。
是非ご一読下さい。

1. 研究者になろうとしたきっかけ

研究者になろうとしたきっかけは、母の死です。小学校6年生の夏、私の母はスキルス胃がんのため39歳で亡くなりました。元来極めて健康だったのですが急に腰痛を訴え、それが胃がんの転移によるものと分かったときには手遅れでした。私の父は外科医でしたが為す術もなく、わずか数ヶ月の経過で亡くなり

ました。私は、父の無念さをひしひしと感じ、将来はがんの研究をしたいと考えるようになりました。

2. 助成研究の内容紹介（素人にも解るようにお願い致します）

悪液質は、がんや心不全などの患者さんが食欲を失い、筋肉の萎縮を伴って体重が著しく減少する状態を指します。悪液質を発症した患者さんは、体中の筋肉が弱り、身の置き所の無いだるさに苛まれることが多いとされます。がんによって引き起こされる悪液質（がん悪液質）は、がんが体内にあるために発症するのは事実なのですが、体の中で何が起きているのかについては十分明らかになっておらず、また現在でも特効薬がありません。

ヒトを含めて生物は、体内で莫大な種類の化学反応がスムーズに連続的に起こることにより生存しています。悪液質では、この化学反応の一部が不調になっている可能性が高いと考えられていますが、どの化学反応がどのようにおかしくなっているのかについては、現在でも明らかとなっていません。この助成研究では、「メタボローム解析」という、化学反応の変化を広く高感度で見つけることができる最新の方法を用いて、がん悪液質を発症するマウスを徹底的に解析し、その結果を手がかりとしてがん悪液質がどのように発症するかを解明することを目指します。

3. 2の将来に繋がる結果予想

この助成研究によって、これまで明確に捉えられていなかった「がん悪液質」の化学反応の変調の全貌が明らかになることが期待されます。そしてその変調の原因が明らかになれば、悪液質の予防法や治療法の開発につながることを期待できます。そしてそれらが臨床応用できれば、悪液質に対する直接的な効果による患者さんの症状改善や生存期間延長の可能性だけでなく、全身状態が改善されることによってより強力な抗がん治療法を選択できるようになる可能性も期待できます。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

このたびは、「がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築」というテーマにてRFLJ「プロジェクト未来」研究助成を賜り、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。私が大腸がんモデルマウスの解析を始めたときに驚いたこと

が、マウスが、がん患者さんの悪液質と同じ症状を呈することでした。このマウスモデルを徹底的に解明すれば悪液質の正体を捕まえることができるのではないか、がん患者さんが食べられなくなる理由がわかり予防や治療法の開発にもつながるのではないかと考え、愛知県がんセンターでの独立を機に、本格的に悪液質の研究を開始しました。がん細胞を体内から完全に除去することを目指す研究は非常に大切ですが、それと同時にがん患者さんの症状の緩和を目指した分子標的治療法の開発も我々ががん研究者の重要な使命と考えております。今回助成していただきます研究を、何とか悪液質に苦しむがん患者さんやご家族の役に立つ形に発展させられるよう精一杯励みます。今後ともよろしくお願い申し上げます。